教育学・心理学

key word

- 比較教育学
- 移民社会の学校教育
- 多文化教育
- 多文化教師教育
- カナダの教育

児玉　奈々
Nana Kodama

教育学部
教授

【プロフィール】
●専門分野
・比較教育学
・教育社会学
●略歴
・1997 年　早稲田大学教育学部卒業
・2000 年　早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了
・2002～2004 年　日本学術振興会特別研究員
・2003 年　早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程修了　博士（教育学）
・2004 年　鹿児島純心女子大学国際人間学部　専任講師
・2008 年　滋賀大学国際センター　准教授
・2016 年　滋賀大学国際センター　教授
・2019 年　滋賀大学教育学部　教授
・2019～2020 年　カナダ・ヨーク大学客員研究員
・2023 年　文部科学省統計調査協力者外国調査アドバイザー

【主な社会的活動】
●所属学会
・カナダ教育学会
・日本比較教育学会
・日本カナダ学会
・日本教育学会
・Comparative and International Education Society in Canada

【連絡先】
●E-mail アドレス
nana@edu.shiga-u.ac.jp

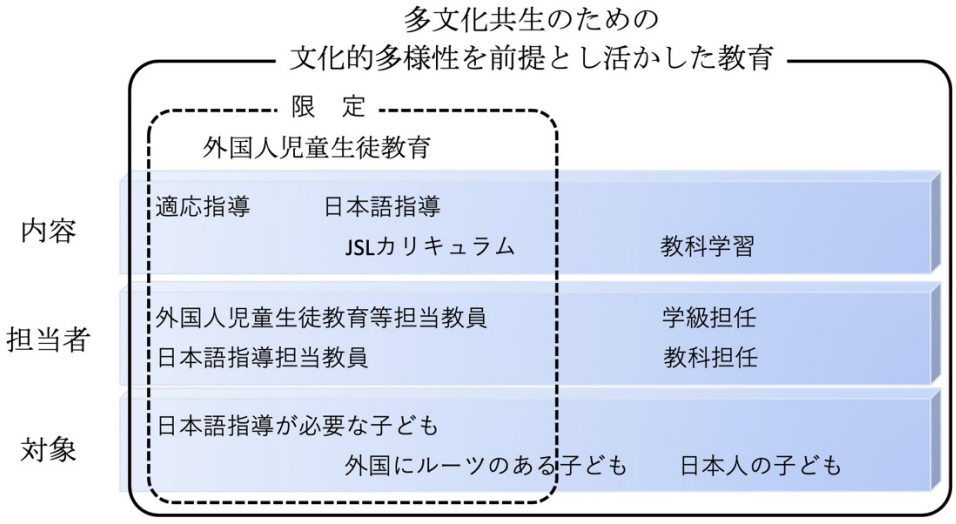
【代表的な研究テーマ】

□ 多様な文化に対応できる教師の育成
□ 移民社会の学校教育の課題と対応

グローバル化が進む現在、日本各地の学校には、外国にルーツのある子どもなどの多様な文化・言語・生育歴・家庭環境の子どもが在籍するようになっています。それに伴い、多様な文化的背景を持つ子どものニーズへの対応、多様性を理由に生じる学力格差、差別・いじめ、中途退学、不登校等の様課題に対応することが、日本の学校や教師に求められています。

これまでの研究では、比較教育学の手法を用いて、移民社会の学校教育の課題と対応について考察を行ってきました。カナダやアメリカなどの移民社会の学校教育が、どのような課題に直面し、どのような理念に基づいて課題に対応しようとしているかについて考察を行い、得られた知見から日本の教育の課題を客観的に把握し、再検討することに取り組んできました。

現在進めている研究は、内容、担当者、対象において限定を伴って実施されている日本の外国人児童生徒教育を、限定を乗り越えて、多文化共生のための文化的多様性を前提とし活かした教育として展開できる教師を育成することを検討するものです。移民社会であるアメリカ及びカナダの教師教育理論、教員養成や現職研修の取り組みを参考に、日本の学校において多文化共生のための教育活動を進めることができる教師を育成する教員養成・研修プログラムの開発を進めています（科学研究費基盤研究(C)「多文化共生教育のための意識改革を促す教師教育プログラム開発：北米の実践の考察から」（児玉奈々研究代表）2022 年 4 月～2026 年 3 月）。



現在の研究課題に関する主な研究業績は、以下の通りです。

- 児玉奈々「カナダ・オンタリオ州の教員ストライキと教育政策への意思反映」『日英教育誌』第 8 号、2024 年、1-21 頁。
- 児玉奈々「カナダ・オンタリオ州の教員養成プログラムにおける多文化教師教育の実施状況―授業科目とフィールドスタディの接続に着目して―」『滋賀大学教育学部紀要』第 72 号、2023 年、67-79 頁。
- 児玉奈々「文化的多様性を前提とし活かした教育の実現に向けて―北米の文化に関連する教育理論を参考に―」『滋賀大学教育学部紀要』第 71 号、2022 年、207-216 頁。

企業・自治体へのメッセージ

外国人児童生徒等の多様な文化を持つ子どもの教育に関わる施策に取り組んでいる自治体と、私の研究成果や諸外国の移民の子どもの学校教育に関わる情報を共有させていただきます。

外国にルーツのある子どもとその教育に関わる教員研修の実施も可能です。